

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	せんだいメディアテーク	
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》	・令和3年度 117,281人（前年度比 157.5%） ・令和2年度 74,451人 ・令和元年度 320,080人
	《事業》	・メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。
5 収支の状況	《費用》	()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 592,330千円 (592,258千円) ・ その他市が負担した費用 22,131千円 (11,105千円)
	《収入》	・ 使用料収入 31,803千円 (26,205千円) ・ その他収入 1,848千円 (1,457千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 令和3年12月、施設利用者アンケートを実施した。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	職員が施設の設置目的を理解していることで、施設運営や事業実施に活かされており、市民活動や外部機関と積極的に連携した事業を実施している。定禅寺通りに面した立地条件を活かし、市の事業をはじめ施設周辺で実施される文化活動への協力が行われている。	27/27
II 施設の運営管理体制	災害発生時の誘導體制や、施設内で事故が発生した場合の連絡体制が明確になっており職員間での共有が徹底されている。個人情報保護・情報セキュリティ研修など、年間を通じ各種研修を実施している。令和3年度の新たな取り組みとして、視聴覚障害者等の自力避難が困難な方を対象とした水平避難誘導訓練を実施し、安心・安全な利用のため、関係者間での連携体制を強化している。また、システム担当者を複数人配置し、セキュリティ対策を実施している点や、設備、清掃等委託業者等とミーティングを重ね、情報共有、改善対応を行っている。事故対応策の研修については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を見送った。	30/30
III 施設・設備の維持管理	施設の保守点検や清掃などが適切に行われており、利用者が常に安全に利用できる状態を保っている。警備員の巡回も適切に行われており、利用者へ安全で安心感のある環境を提供している。空調設備の使用実績の分析、天候、施設の使用状況を基にした運転方法の検討、実施を継続して行った。	24/24
IV サービスの質の向上	施設利用者が使いやすいように、窓口やHPでの情報提供方法に工夫をしている。利用者からの意見やアンケート結果は、職員が情報を共有し改善に努めている。施設特性上見学者の多い施設であるため、多言語に対応できるよう職員を配置するほか、幅広い層に向けたパンフレットを作成している。窓口対応等でお客様と接する職員全員がマニュアルを所有しており、内容を把握できている。その内容についても、常にブラッシュアップが図られている。	28/28
V 施設固有の基準	施設貸出や使用料徴収などの管理業務は適切に行われている。各種講座、市民等との協働事業を実施し、市民への生涯学習活動への支援が適切に行われている。事業実施にあたっては、市民が参加しやすい工夫がなされているほか、関係団体と良好な関係を築きながら行っている。特に、障害者の生涯学習の課題解決のため関係機関による協議会を立ち上げ、今後の取り組みの方向性の検討を行った点について、生涯学習の推進に大きく寄与する新たな取り組みであると評価する。	27/26

三 評価総括

《指定管理者（（公財）仙台市市民文化事業団）による自己評価》

施設の管理業務にあたっては、仙台市と協議を行いながら条例、協定書等に基づき適切に行い、費用の抑制にも努めた。施設の貸出し及び施設使用料徴収業務についても、条例、協定書に基づき適切に行った。また、賃貸借について複数年契約や再リースを行うことで費用の抑制に努めた。個人情報保護、情報セキュリティについては、全職員対象の研修等により対策を講じた。

施設の維持保全は、設備の経年劣化により発生した緊急性の高い修繕や延命に繋がる予防保全を実施し、令和4年度の照明等改修工事に向け、関係各所と連携し準備を進めた。また災害発生時の対応は4権原者による共同防火管理体制を敷き、年2回の訓練を実施した。なお、新型コロナウイルス対策として、仙台市のガイドラインに基づき、職員をはじめ、館内の委託業者と連携し、来館者が安心・安全に利用いただけるよう感染拡大防止の運営に努めた。

映像音響ライブラリーでは、利用者の問い合わせに的確で丁寧な対応に努め、資料貸し出しやレファレンス、ボランティアと連携した障害者向けサービスなどライブラリー業務事業や震災関連の映像などを含む様々な協働による地域芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し提供した。

自主事業では、外部機関との連携事業に力を入れた。震災から10年が経過した機会を捉え、各種団体とともに、検証機会となるフォーラムや展示を実施した。また、文科省が推進する障害者の生涯学習について、NPO、仙台市、仙台市教育委員会、有識者らとともに新たに協議会をつくり、モデル事業の実施を通して、今後の継続・発展を目指した。展覧会等の開催にあたっては、外部資金調達に努めるとともに、コロナ禍に対応したオンラインでの事業展開も継続し、メディアテークの特性や総合的なアクセス機能の活性を促すなど、時勢に応じた魅力ある事業展開に努めた。

《施設設置者（仙台市）による評価》

総合評価

せんだいメディアテークは、市民図書館との複合施設ということもあり、多くの方々に利用される施設であるが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年4月1日～令和3年5月11日、8月30日～9月12日の期間を臨時休館とした。利用者への利用自粛の依頼や使用日変更の調整等、イレギュラーの業務も多く発生したが、利用者の利便を第一優先にしながら的確に対応することができた。また年間を通し新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、円滑に施設運営を行ったと評価できる。

施設管理については、施設の老朽化が進み、設備の故障等緊急に対応を要する場合も増えているが、都度迅速に対応し、利用者への影響を最小限に抑えることができている。加えて、省エネルギーに関する取り組みや電気使用量の分析等を継続実施しており経費削減のための努力がうかがえる。また、令和4年3月16日に発生した福島県沖地震では、迅速な建物・設備の安全確認、適切な応急処置等により、休館は翌日の一日にとどめ、翌々日より通常開館することができた。

活動支援においては、他施設にはない専門性を活かして、本市他部局や大学、NPOなどの団体と連携・協力しており、本市における生涯学習・文化芸術支援の拠点として大きな役割を担っている。また、定禅寺通りに関する各種事業等への連携についても、良好な協力体制が整えられている。特に、現状では学習機会が十分ではない障害者の生涯学習の不足の課題解決のため、関係機関による協議会を立ち上げ、今後の取組方向性の検討を行った点は新たな取り組みであり、市の生涯学習活動に大いに寄与するものと評価する。

以上、せんだいメディアテークの管理運営を担う当該財団による事業運営は、これまでの運営実績により蓄積された高度な専門性と知識、利用者や市民団体など様々な主体との良好な関係に基づき、多様な市民の生涯学習活動における要望に適切に対応し積極的にサービス向上に取り組むなど、施設設置目的に沿った管理運営を実施しているものと大いに評価できる。

S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部生涯学習課